ょう？

女性(31)。保育
しまいました。

りますし、病状によっても
まうことがあります。
助手　ほかに方法はないん
ですか？
所長　訪問型サービスもあ
るわよ。自宅に看護師さん
れるの。施設に預けるより
るけど、補助制度がある自
わね。訪問型サービスも事
必要だわ。
早速、複数の施設やサービ
ておきます。

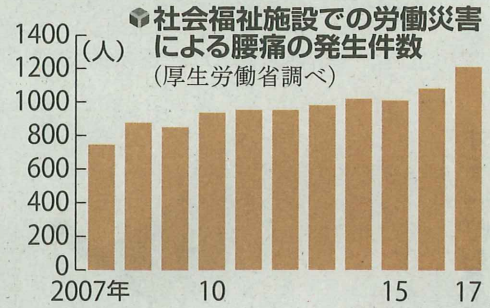
暇制度の確認を

け先が見つからなくても、
る制度があった気が……。
しい！　育児・介護休業法
た看護休暇ね。小学校入学
が、病気やけがをした時に
休暇よ。労働者の権利だか
から申し出があれば事業主
の。就業規則で子どもの対
げている会社もあるわ。
何日ぐらい休めます？
どもが１人なら年度内に５
上なら10日まで。予防接種
のためにも使えます。ただ
は無給という事業所もある
先の看護休暇の扱いを事前
おくといいですよ。

者をベッドに移す介護福
（3月22日、大阪市で）

福祉機器の活用で対策を

厚生労働省によると、社会福祉施設の職員の労働災害（４日以上の休業を伴う病気やけが）は、2017年に過去最悪の8738人（うち死者４人）となった。このうち腰痛は1214人を占め、10年で1.6倍に増えている。



13年に厚労省は「職場における腰痛予防対策指針」を改訂。介護施設などでは原則、人力で抱き上げず、リフトなどの活用を求め、機器購入費の補助制度もある。ただ、機器使用への抵抗感や購入費の確保などが壁になり、広まっていないのが実情だ。厚労省幹部は「施設のトップが職員の腰痛対策の重要性を認識し、機器の導入と職員の育成を進めてほしい」と話す。

一方、介護福祉士の養成学校で、リフトなどの活用方法を指導する必要性を指摘する意見もある。

京都女子大の冨田川（とみたがわ）智志助教（介護福祉学）は、17年度に全国の養成学校を調査したところ、回答した128課程のうち、スライディングボードの習得を目指していたのは55％、リフトは33％にとどまった。冨田川助教は「ノーリフティングケアの知識や技術を身に付けた介護福祉士を養成できれば、腰痛による離職を減らし、介護人材の確保にもつながる」と話している。

痛

、入居者の脚をべ
すにぶつける心配
た。抱き上げられ
緊張で体をこわば
があるが、機器を
が和らぎ、姿勢も

士の芝本崇宏さん
は機器導入に乗り
ったが、「入居者
なっている」と感
に使うように。「な
あかんの」と嫌が
、乗ってみると「ゆ
いで楽やな」と安
たという。

入居者をスライディングボードに乗せて、ベッドから車いすに移す介護福祉士の芝本さん（右）

介護係長の寺前光啓さん(42)は、「以前は『介護職員は腰痛になって一人前』という誤った意識があった。今は職員と入居者の双方にとって安全な介助が当たり前になり、人力で抱き上げようと思う職員はいない」と話している。

県を挙げて……

高知県では15年度から、全県でノーリフティングケアの普及に取り組んでいる。国の補助の対象ではない福祉用具の購入費を県独自で補助し、施設長などが対象の研修も実施してきた。モデル施設を12か所設けて、施設の見学会や成果の報告会も開いている。

昨年10月の県の調査では、特別養護老人ホームの85％、介護老人保健施設の75％でノーリフティングケアが実践されていた。県福祉・介護人材対策室は「職員と利用者の双方に優しいケアを広げ、『介護＝きつい仕事』のイメージをなくして新たな人材確保につなげたい」としている。

滋賀医科大の垰田（たおだ）和史准教授（労働衛生学）が07～16年の社会福祉施設の労災発生件数を分析したところ、都道府県別では、高知県だけが発生件数が減少し、職員１００人当たりの発生率も低下する傾向にあった。

垰田准教授は「高知の取り組みの効果がはっきり出た形。日本の標準にしなければならない」と指摘する。

パックでできる

人に寄りそう。肌に向きあう。
ドモホルンリンクル®
約3日分